

# いちのみやの芸術文化

■ 特集「尾張に生きた詩人 佐藤一英」

■ 一宮市芸術祭アルバム

■ 「エッセイ」

尾州縞木綿の手わざを受けついで  
デザイン・工芸・彫塑部門 尾張もめん伝承会

熊澤 総子

■ これからの催し



佐藤一英  
左下:「かしの木の四季」自筆原稿

2020.3

第51号

一宮市芸術文化協会

「一宮市」には、一宮市博物館・一宮市三岸節子記念美術館・一宮市尾西歴史民俗資料館など先人の残した文化を紹介する施設があります。私たちの「身近な文化」を学んでみませんか？

尾張に生きた詩人

さとう いち えい  
佐藤 一英

昨年は、長編詩「大和し美し」などで知

られる一宮市萩原町出身の詩人・佐藤一英（一八九九～一九七九）の生誕百二十年の年にあたり、その全貌を紹介する特別展や催し物が一宮市博物館等で開催されました。

一英は、東京の大学に在学中、アメリカの小説家で詩人でもあったエドガー・アラソン・ポーの詩に心酔。菊池寛に小説を書くことを勧められながらそれを固辞し、詩の世界を志しました。そして大正十一年、一英が二十三歳のときに名古屋の詩誌「青騎士」に参加するとともに、詩集『晴天』を刊行し、新進の詩人として認められました。その後、苦悩の末、昭和六年に倭建命をつ

たった「大和し美し」を執筆。さらに、昭和

十年、三十六歳の時には、聯組詩「空海

頌」四十七篇を完成させ、新たな詩法「聯

（頭韻十二音律四行）を確立しました。こ

の二作は棟方志功により版画化され、広く

知られることとなりました。

「聯」とは、最初の文字をそろえた十二音

が四行連なった詩のことです。例えば、図

版の詩画にある聯詩を見てみましょう。

いも住みてほとりにみのり

いゝに出て陽の子はめぐり

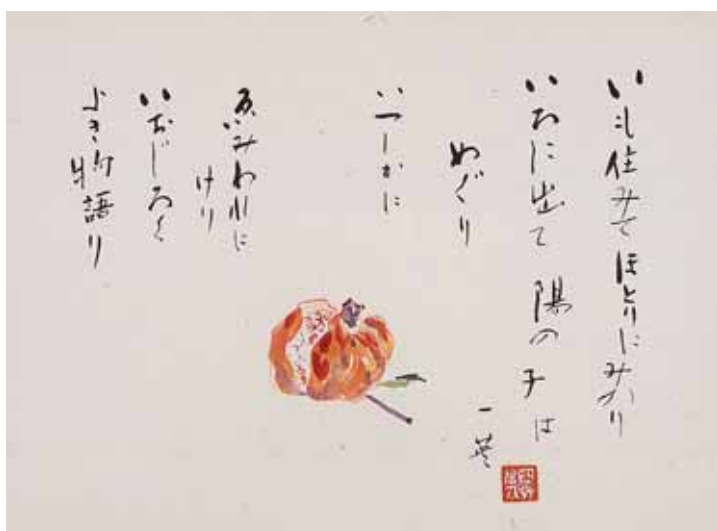
いっしかにゑみわれにけり

いおじろくよき物語り

※いもは、妹（いも）の意。

男性が恋人・妻・姉妹を親しみを込めて呼んだ語。

頭の文字はすべて「い」で、最後は「り」で揃えられています。これにより全体に統一感とともに心地よいリズムが生み出されます。「空海頌」では、驚くべきことに四十七編の聯詩の頭文字が「いろはにほへと…」になっています。



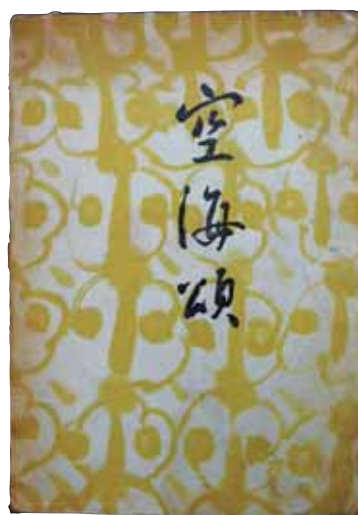
▲佐藤一英作 詩画「物語り(ざくろ)」

一英は詩作の他にも、昭和六年に雑誌「児童文学」を編集・発行して、まだ無名であった宮沢賢治の作品を掲載しました。その後、万葉集や平家物語、太平記など、古典文学を児童向けに分かりやすく著した本の執筆も行いました。

四十七歳で終戦を迎え、東京から萩原町に戻ると、寺に焼け残ったイチイカシの古



▲棟方志功「空海頌」より

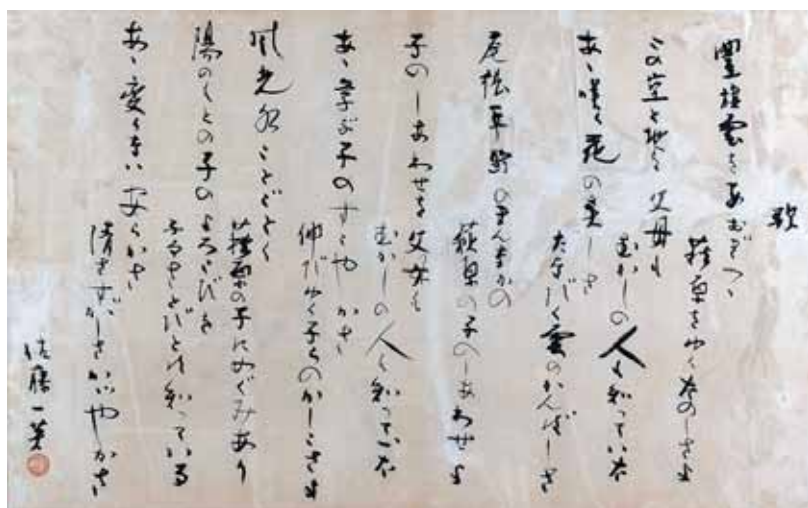


▲佐藤一英詩集『空海頌』棟方志功挿絵 装丁  
(題字は佐藤一英)昭和17年、昭森社

木に感銘を受け、「日本の文化の根源は樫の木にある」とする「樫の木文化論」を展開し始めました。これは北緯三十五度線上に照葉樹林が繁茂し、樫の木の道具により豊かな文化が築かれたことに注目したものでした。一英は、故郷の農民の生きる姿や豊かな自然を見つめながら思索を深めましたが、その過程で収集した樫の木の農具は、昭和四十四年に自宅近くに開館した樫の木文化資料館に収められ、人々の暮らしと自然の繋がりの深さを伝えています。

また忘れてならないのは「万葉論争」です。一英は、万葉集に詠まれている高松の地は故郷の萩原町の高松であると主張し、専門家の間で論争が生まれ、新聞紙上を賑わせました。昭和三十二年には一英の提唱によって高松に「萬葉公園」が開園し、歌碑とともに万葉集に詠まれた植物が植えられました。この他にも一英は、愛する尾張の地でたくさんの校歌を子どもたちのために作詞するなど、大きな足跡を残しました。

(二宮市博物館 学芸員 杉山 草子)



▲佐藤一英作詞 萩原小学校校歌(自筆)



▲特別展期間中に開催された  
萬葉公園・樫の木文化資料館の見学会

# 4回 芸術祭

「第74回 一宮市芸術祭」を  
9月～12月に市内各所で開催しました。  
期間中には47行事開催され、約2,900名の方が  
参加され、24,000名を超える方が来場されました。

## 音楽部

尾西ウインドオーケストラ第85回定期演奏会



11月10日(日)

第9回雅楽フェスティバル



12月7日(土)

尾西芸能祭



11月16日(土)～17日(日)

一宮市民吹奏楽団第44回定期演奏会



12月8日(日)

## 社会文化部

市民茶会・一宮茶道連盟茶会



10月6日(日)・11月17日(日)

曾山流樹徳吟詠会山瑩会錬成会



11月24日(日)

クリスマスコンサート



12月22日(日)

第74回一宮市民華道展



11月2日(土)～3日(日・祝)

第43回一宮合唱祭



11月24日(日)

濃尾プラスソサエティ第1回定期演奏会



12月22日(日)

尾西華道展・お茶会



11月16日(土)～17日(日)

# 一宮市

## 美術部

### 楽しく描こう会水彩画展



8月27日(火)～9月1日(日)

### 第17回尾西作家協会展



12月3日(火)～8日(日)

### 第65回公益社団法人中部日本書道会一宮支部展



11月23日(土・祝)～24日(日)

### 第48回公益社団法人中部日本書道会一宮支部学生書道展



11月23日(土・祝)～24日(日)

### 第13回パレット水彩画展



12月17日(火)～22日(日)

### 愛知県文化協会連合会の

### 催し(報告)

### 愛知県民茶会

10月6日(日)、半田市福祉文化会館(雁宿ホール)において、愛知県民茶会が行われました。  
半田市と常滑市の文化協会の皆様が茶席を設けられ、当日は1,900人を超える方が来場されました。

### 愛知県文連美術展

12月24日(火)～1月5日(日)、愛知芸術文化センター8階愛知県美術館ギャラリーを会場に、第44回愛知県文連美術展が開催されました。  
県下より265作品が出品され、期間中には約1,300名の方が来場されました。  
本協会からは9名の方が出品され、高木俊一さん(日本画部門)が奨励賞に選ばれました。

### 愛知県文連西尾張部芸能大会

11月24日(日)、飛島村中央公民館ホールにおいて、愛知県文連西尾張部芸能大会が行われました。  
10の文化協会の各団体が日頃の練習の成果を存分に発揮し、会場からは温かい拍手が送られていました。

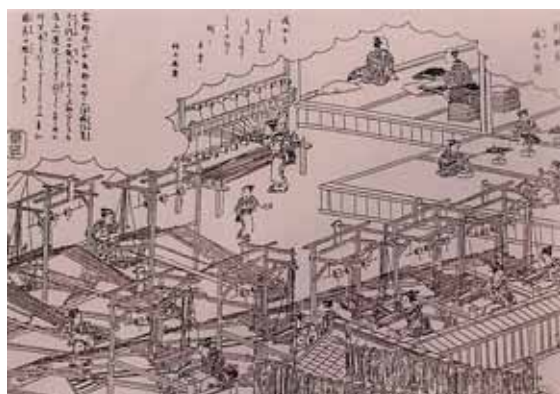
本協会からは「津軽三味線恋糸」(邦楽部門)の皆様が出演され「津軽じょんから六段(さくら入り)・花笠音頭・津軽甚句・津軽タント節」の4曲を披露されました。観客を巻き込んだ演奏もあり、会場は大いに盛り上がりしました。



# エッセイ 尾州縞木綿の手わざを受けついで

デザイン・工芸・彫塑部門

尾張もめん伝承会 熊澤 総子



結城縞織屋の図（『尾張名所図会』）

江戸時代、尾州は縞木綿の棧留（えんりゅう）縞、結城縞（ゆうきじま）の有名な産地で、棧留縞は尾州より織り出し諸国へ売出す事、数百万反と大蔵永常著『広益国産考』に記述されている。縞という言葉は、古くは日本語になかった。いわゆる縞柄を筋などと呼んだが、南蛮貿易により南の島を経てもたらされた織物の縞地模様を「島」と呼ぶようになり、転じて「縞」となった。エキゾチックな色柄をまねて織られ、流行

の品となった。棧留縞のサントメはインドの港のサントスから、結城縞は関東の結城からの由来である。暑い国が原産の縞が日本に伝来し、尾張で盛んに作られたのは戦国時代以後で、尾張藩は百姓の着物は地元で生産された地木綿に限るという藩令を出し、麦作の後には縞が作られ、秋には見渡す限りの白い綿の光景がみられた。縞は一宮の三八市に集められ、織物の原料となった。綿織物の産地であった一宮はその後の様々な影響や状況の変化により、毛織物の産地となり、今に至っている。

私が織物と出会ったのは三十年以上前、一宮市博物館の繊維講座で江戸時代の工法で反物をつくり、技法や歴史を学ぶ講座であった。綿を栽培するところから、糸車で糸を紡ぎ、草木で染め、手機で織り仕上げるという一連の工程は非常に手間がかかり、一年がかりの作業である。毎年、次に織る縞柄を考えるのは楽しみである。その



会員が織った反物

際に参考にするのが、中央図書館蔵の縞帳である。この縞帳は素晴らしい物で、細い糸の織細で手の込んだ縞柄が多く、贅沢禁止令が出ている時代の人々が制限された中で常に新しい工夫をしていた事がわかる資料である。縞柄のおもしろさはそのバリエーションの多さで、たとえ二色でも大縞、細縞の組み合わせ、よこに入れる糸でまったく違う柄になるところである。今はそれらを参考に、色柄を自由に織ることで個性が表れる柄になる。また、綿から紡いだ手紡ぎ糸で織る事にこだわっている。本当に手間がかかるが、織ると陰影に富み、魅力的な地合いになり、昔の人々がいかに糸や布を大切に

したかが身にしみ、これら織物の原点の手わざを伝えたいという思いが強くなる。近代化されると昔の手わざ、道具は必要のない物として忘れ去られるが、それらが原点となり、今の技術が発展してきたのである。

尾張もめん伝承会はこれらを残す為、博物館・小学校・児童館・図書館、各種イベント等で糸づくりや染色、織物教室をボランティアで開いたり、一宮市芸術祭参加事業「手つむぎ・染め・織り展」で活動発表や実演体験をしてもらったり、伝承活動を行っている。



糸つむぎ体験会

【参考文献】  
大蔵永常『広益国産考』



「大津絵干支子」

松岡 彩子

一宮市  
芸術文化協会  
加入団体の  
催し

『漢詩會漢詩講読会』

【問合せ先 一宮漢詩漢詩會】  
☎(78)7953

日時▼3月28日(土)・4月25日(土)

5月23日(土) 午前10時

会場▼中央図書館

内容▼漢詩文の基本的な読み方を  
はじめ、作者の時代背景に  
も触れながら初めての方に

も分かりやすく「唐詩三百  
首」を解説します。(初心者  
歓迎)

講師▼三島徹氏

(東洋文化振興会会長)

参加料▼月2、000円

申込み▼当日直接会場

『漢詩會作詩教室』

【問合せ先 一宮漢詩漢詩會】  
☎(78)7953

日時▼4月7日(火)・5月5日(祝)

6月2日(火) 午前10時

会場▼中央図書館

内容▼漢詩文の作り方の指導をは  
じめ、持ち寄った創作詩の  
添削の検討を会員間で行い  
ます。(初心者歓迎)

参加料▼年3、000円  
申込み▼当日直接会場

『市民短歌教室』

【問合せ先 真清短歌会】  
☎(51)3570

日時▼4月12日(日)・6月14日(日)

午後1時

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼真清短歌会委員により実作  
指導します。(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼当日直接会場

『市民俳句教室』

【問合せ先 一宮市民俳句教室】  
☎(73)0282

日時▼4月26日(日)・5月24日(日)

6月28日(日) 午後1時

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼当季雑詠3句を一宮市民俳  
句教室委員が指導します。

(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼当日直接会場

『市民川柳教室』

【問合せ先 一宮川柳社】  
☎(44)7598

日時▼4月26日(日)・5月24日(日)

6月28日(日) 午後1時

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼自由吟および課題吟を一宮  
川柳社委員が指導します。

(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼当日直接会場

『狂俳月例会』

【問合せ先 一宮狂俳壇連盟】  
☎(78)5002

日時▼4月11日(土)・5月9日(土)

6月13日(土) 午後1時

会場▼葉栗公民館

内容▼各自10句持参、互選により  
優秀作を記録に残します。

(初心者歓迎)

参加料▼無料

『石刀まつり』

【問合せ先 一宮民俗芸能連盟】  
☎(73)5221

日程▼4月19日(日)

会場▼石刀神社(今伊勢町馬寄)

内容▼山車からくり・献馬

『春季謡曲大会』

【問合せ先 一宮謡曲同好会】  
☎(62)0966

日時▼4月19日(日)

午前9時30分

会場▼尾西生涯学習センター

内容▼素謡、連吟、仕舞等の発表

入場料▼無料

## 『尾西絵画クラブ』

### ポピーの会 絵画展

【問合せ先 尾西絵画クラブ】

☎(62) 8535

日時▼5月1日(金)～6日(休)

午前9時～午後5時

(1日は午後1時から、

6日は午後4時まで)

会場▼三岸節子記念美術館

内容▼講師の三輪清弘先生の指

導で学ぶ、尾西絵画クラ

ブ、ポピーの会の2団体

による合同展を開催しま

す。

入場料▼無料

## 『サロンコンサート』

【問合せ先 一宮音楽家協会】

☎(87) 2827

日時▼5月17日(日) 午前11時～

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼会員による演奏会

「愛の賛歌」など

入場料▼無料

## 『尾西ウィンドオーケストラ』

### 第86回定期演奏会

【問合せ先 尾西ウィンドオーケストラ】

☎(76) 1161

日時▼6月14日(日) 午後2時～

(開場は30分前)

会場▼尾西市民会館

内容▼オペラ名曲集ほか、楽し

い曲を演奏します。

入場料▼一般500円

中学生以下無料(要整

理券)

## 『一宮市民吹奏楽団』

### レインボーコンサート2020

【問合せ先 一宮市民吹奏楽団】

☎080(5102) 8611

日時▼6月21日(日)

午後1時30分～

(開場は30分前)

会場▼一宮市民会館

内容▼「音楽で楽しむオリン

ピックイヤー」をテーマ

に演奏します。

入場料▼一般500円

前売400円

## お詫びと訂正

「いちのみやの芸術文化」

第50号(令和元年12月号)に

て、一部誤りがありました

ので、お詫びして訂正さ

せていただきます。

8頁 加入団体の催し

4段落 講師名

【誤】名古屋経済大学教授

四辻秀紀先生

【正】名古屋経済大学教授

四辻秀紀先生

## 『加入団体の催し』欄に情報を掲載しませんか？

このコーナーでは一宮市芸術文化協会加入団体の活動情報を募集します。掲載を希望される団体は、発行月3・6・8・12月の前々月15日までに、下記の必要事項を任意の様式にて記入の上、事務局まで提出してください。

### 必要事項

①行事名 ②団体名 ③問合せ先電話番号 ④日時  
⑤会場 ⑥対象 ⑦参加料 ⑧申込方法 ⑨その他  
必要事項

### 提出先

〒491-8501 一宮市芸術文化協会事務局  
(住所不要)  
またはFAX 0586-73-9213



「夕べに」真下賢一

## 2020一宮総合美術展

入場無料

会期 6/4(木)～6/7(日)

時間 午前10時～午後5時  
(7日は午後4時30分まで)

会場 一宮スポーツ文化センター

加入団体選抜作家の日本画・洋画・彫刻立体・  
デザイン・工芸・書・写真の作品を展示します。

[題 字] 武 山 翠 屋  
[編集・発行] 一宮市芸術文化協会

[連絡先] 一宮市芸術文化協会事務局 (市教育委員会生涯学習課内)  
〒491-8501 愛知県一宮市本町2丁目5番6号  
TEL 0586-85-7075 / FAX 0586-73-9213